

2019年度環境報告

2019年度 当社における 環境マネジメントシステム活動について、簡略ながら報告致します。

1. 外部審査結果

外部審査機関による 再認証審査（JIS Q14001:2015）を11月5日白岡工場・11月6日掛川工場で受審し、不適となる事項はありませんでした。

2. 環境目標の達成度

運用実績は以下の通りです。

① 電力

目 標 : 2018年度使用効率を基準として2019年度末までに1%向上する

結 果 : 電力使用効率は、生産性の向上 及び LED照明への切り替え等の施策を推進した結果 6.16%向上し、目標を達成しました。総使用量は、11.63%削減しました。

② ガソリン

目 標 : 2018年度燃費を基準として2019年度末までに1%向上する

結 果 : 営業車の燃費は、エコドライブの徹底により3.86%向上し、目標を達成しました。

③ プロパンガス・都市ガス

目 標 : 2018年度使用量を基準として2019年度末までこれを維持する。

結 果 : プロパンガス・都市ガス総使用量は、効率的な使用を継続し4.34%削減し目標を達成しました。

④ 一般廃棄物

目 標 : 2018年度排出量を基準として2019年度末までに1%削減する

結 果 : 一般廃棄物総排出量は、分別廃棄の徹底を継続しましたが10.99%増加し、目標を達成できませんでした。

要因は、新たに導入した設備で、分別しきれない細かな古紙が一般廃棄物と混ざり排出されたためです。

今後は、分別を更に細かく出来るように改善してゆきます。

⑤ 廃プラスチック

目 標 : 2018年度排出量を基準として2019年度末までに1%削減する。

結 果 : 廃プラスチック排出量は、分別廃棄の徹底とリサイクルとしての売却を継続しましたが21.28%増加し、目標達成できませんでした。

要因は、リサイクルプラスチックの排出基準が変更され、従来リサイクルとして売却していた包装等のプラ製品を、廃プラスチックとして排出した為であります。

⑥ 古紙排出率

目 標 : 2018年度排出率を基準として2019年度中に0.2%削減する

結 果 : 古紙排出率は、余枚管理の徹底と工程ロスの削減を推進し0.05%削減しましたが、目標を達成できませんでした。

⑦ 設計開発

目 標 : 2019年度末までに環境に配慮した改善提案を200件行う。

結 果 : 環境に配慮した改善提案は、138件提案され目標達成できませんでした。

3. 法規制及びその他の要求事項の遵守状況

特に問題はありません

4. 利害関係者からの情報又は、社会環境の変化

苦情等はありませんでした。 事業環境などの大きな変化もありません。

5. 新たに生じた著しい環境側面の変化

発生しておりません。

6. その他の諸事項

活動は問題なく推進しております。

7. 総括

1. 2019年度の環境管理活動は、上記の通りとなりました。
2. 5月に実施した臨時内部監査を監査員の教育訓練と位置づけ、工場間の相互監査を実施したことにより新任内部監査員及び内部監査員候補の力量の向上いたしました。
また、環境管理活動の水平展開を行い、活動が活性化しました。

以上